

Harper's BAZAAR

ハーパース バザー
2021年3月号

Fashion Preview

この靴とバッグで
新しい日常をいく!

気分はドレスダウン
カジュアルシックな春へ

明日のワークスタイル
おしゃれな人は何を着る?

米倉涼子のファッション宣言

Words of Wisdom

カマラ・ハリスが提言
女性政治家に渡ったバトン
ファッションの明日を語ろう

アイコンの名言に学ぶ
春色メイクアップセラピー
2021年を駆ける女たち

Better TOMORROW

明日を描くチカラ

ACTION FOR WOMEN

女性ドクターが設立した 女性目線の支援財団が誕生

コロナ禍によって、社会のさまざまな問題が露呈している。
なかでも深刻な様相を見せる女性に関わる問題に対処すべく、
包括的に支援するプラットフォームが立ち上がった。

By Manabi Ito

2020年は女性の自殺率が7月以降急増し、10月には前年同月比で約82%増、というデータを警視庁が発表した。ほかにも女性の失業率、それに伴う貧困、さらにコロナ禍でのDVや性被害の報告も増加している。

「実際はコロナ禍以前から、貧困や虐待、性暴力などに苦しむ女性が多く存在しています。産婦人科医として治療現場で、苦しむ女性、性暴力で望まぬ妊娠をする女性をたくさん見てきました。日本が先進国であるというのとはやや幻想で、女性を取り巻く現状は、医療にしても社会のシステムにしても、世界的に見ると驚くほど遅れている点が多いのです」と話すのは、産婦人科医として30年以上のキャリアを持つ対馬ルリ子先生だ。

女性医療の先駆者である対馬先生は「男性と女性では心身の特徴が違うのに同じ医療を行っているのはおかしい」と、女性医療に特化したクリニックを2001年に日本で初めてスタートし話題を集めた。その後2003年には「女性医療ネットワーク」を設立、全国約600名の女性医師・女性医療者と連携し、女性の生涯にわたる健康のための情報提供や啓発活動を開始。政府に対して女性の包括的健康支援を積極的に働きかけてきた人である。

「それでも日本の現状は変わりません。世界経済フォーラム（WEF）が2019年に発表した『ジェンダー・ギャップ指数』で日本は153カ国中121位、G7で最下位です。本当に真剣に向き合わなくてはいけない問題なのです。医療現場において性暴力や避妊の失敗などで望まぬ妊娠をする女性についていえば、緊急避妊薬は他国に比べて高額、しかも薬局で簡単に入手することはできない。中絶方法にしても他国では薬剤による方法が増えているのに、日本では依然、旧式の手術が主体。また、子どもが生まれてもワンオペ育児など、常に女性にかかる負担は大きい。雇用の賃金格差も大きく、問題は山積みです。私は医療が専門ですが、女性の問題はすべてがつながっていて、医療だけではサポートしきれない部分もあります。さまざまな分野がひとつのプラットフォームでつながることが、ウエルビーイングを推進する近道と考えたのです」

そして2020年8月、対馬先生が旗振り役となって『日本女性財団』が立ち上がった。医療分野だけでなく、女性を取り巻く「女性の生涯の心身と社会的なウエルビーイングを支援する」ことをテーマにしている。

「私は頑張って働いてあと20年という感じですが、これから未来を生きる女性たちはたくさんいます。その女性たちの環境が今のままでいいわけがありません。女性たちを応援し、未来の社会をよくする仕組みを今作らねばと思い、財団を立ち上げました。貧困で苦しむ若い女性たちを支える団体なども増えていますが、いずれも資金がなくギリギリで頑張っているところばかりです。さまざまな女性支援のプラットフォームとなり、政策や資金面、精神的な後ろ盾としてサポートしていく仕組みになればと思っています。わかりやすくいうと、女性のための“ノア方舟”的な役割とでもいうのでしょうか。また、女性に限らず、より多くの方たちに関心を持ってもらうために、さまざまな情報配信もしていきたいと考えています」 ■

PHOTO: DAVID OLDHAM/TRUNK ARCHIVE/AELO